

東大和市学校規模等のあり方検討委員会（第25回）会議録

1 開催日時

平成24年11月13日（火）午前10時00分から

2 開催場所

会議棟第1会議室

3 出席者

委員：青野かほる 荒川進 小川雅義 鈴木一徳 高嶋清和 渡辺理万
菊地明 菊地フミ子

事務局：阿部学校教育部長 田代学校教育課長 加藤特別支援教育係長
藤本学務係長

4 公開・非公開の別

公開

5 傍聴者数

0人

6 議題

(1) 報告書（案）の検討について

(2) その他

7 会議資料

(1) 会議次第

(2) 東大和市学校規模等のあり方検討委員会 報告書（案）

8 会議の要旨

【質疑等】

委員長： 報告書（案）の検討について、まず十小の対策から検討したい。緊急提言においては、八小と十小との間で通学区域を変更して、十小についても増築が望ましいこととした。最新のシミュレーションを確認しても、やはり十小の増築は必要な状況なので、具体的対策については、緊急提言のとおりとしたい。

委員長： 次に、二小の対策について検討したい。これまでの議論においては、青梅街道から東側部分を五小の通学区域に変更する案を軸に対策を検討してきた。しかし、最新のシミュレーションによると、平成30年

度までに見込まれる教室の不足数は2教室であり、特別教室から普通教室への転用により対応することも可能である。よって、あえて通学区域を変更して対応する必要があるのか再検討したい。なお、今後の児童数は、平成30年度まで推計されているが、その後の見込みはどうか。

事務局： 住民基本台帳に基づき推計しているのですが、平成31年度以降の推計は現段階では不可能である。

委員： シミュレーションによると、通学区域を変更しても、それほど児童数は減らない見込みとなっている。そうであるならば、あえてこの地域だけ通学区域を変更するよりは、当面は特別教室から普通教室への転用により対応すれば良いのではないかと。今後、大きなマンション等が建設され、児童数がさらに増える状況となれば、その時点で改めて検討すれば良いと思う。

委員長： 委員の中には保護者もいるが、保護者の立場として通学区域の変更はどのように感じるか。

委員： 実際に通学区域の変更を経験したことがあるが、個人的には、それほど大きい影響はなかったと思っている。

委員： 通学区域の変更により、自治会や商店街などの地域のまとまりを分割するとなると、大きな影響が出てくると思う。二小のこの地域はどのような状況か。

委員長： 青梅街道の東西は、同じ商店街の組織となっていると思う。

委員： そうであるならば、現時点では通学区域はこのままとした方が良いのではないかと。

委員長： 今後、大きなマンション等が建設され、児童数がさらに増える状況となれば、その時点で通学区域の変更を検討すれば良いのではないかと。その際には、三小・五小・六小を含めて通学区域の変更を検討できれば良いと思う。

委員： 三小・五小・六小の通学区域の変更は、中・長期的な課題となっている。よって、二小を含めて、市全体で通学区域の変更を検討した方が良いと思う。それから、この委員会では、学校ごとに様々な対策を検討しているが、それらをわかりやすく理解するため、対策の内容を一覧表にした方が良いと思う。

委員長： 二小の対策について、現時点で通学区域は変更せず、今後の状況により、五小・六小・三小を含めて市全体で通学区域の変更を検討するという事でまとめた。

事務局： 二小の対策については、特別教室から普通教室への転用が直近の対策で、五小・六小・三小を含めた市全体における通学区域の変更が中・長期的な対策と理解した。

- 委員長： 先ほど他委員から意見が出されたが、次回会議においては、学校ごとの対策について時期別に整理した一覧表を作成してもらいたい。それから、普通教室が2教室の不足であれば、特別教室から普通教室への転用により対応することとしている。この基本的な考え方については、報告書（案）に明記した方が良いと思う。
- 事務局： 委員会の基本的な考え方を明記した上で、学校ごとの対策を一覧表に整理した資料を次回会議までに用意したい。
- 委員長： 次に、三小の小規模校状態の解消について、検討したい。
- 委員： 前回の審議会でも、三小の通学区域の変更については、早期に取り組むべき課題とされたが、実現されていない。三小の児童数は少なくその影響が出ていると思うので、対策を講じるべきではないか。
- 委員長： 今後の学級数の見込みでは、1学年2学級となる見込みであり、それほど小規模校にはならないのではないか。
- 委員： 確かに2学級だが、それでも子どもの数は少ないと思う。ただ、通学区域の変更により三小の児童数を増やすことは、難しい部分があると思う。
- 委員長： 三小と六小との間で通学区域を変更するとなると、二小・五小にも影響を与える。よって、通学区域の変更は市全体で実施しなければならず、非常に難しい。
- 委員： 難しい部分もあるが、三小の児童数を増やすための対策は必要だと思う。実際に三小の子ども達を見ていると、児童数が少ない影響が出ていると感じることがある。
- 委員長： 確かに三小の児童数は少ないが、市全体で考えたときには、それだけで通学区域を大きく変更することは難しいと思う。
- 事務局： 三小は、児童数が少ないという課題が確かにあるが、市全体で考えたとき、通学区域の変更を最優先に検討しなければならないのは、八小・十小だと思う。
- 委員長： そのような状況なので、三小の対策については、中・長期的な課題として位置付けられていると思う。通学区域の変更以外に、考えられる他の対策はないのか。学校選択制は導入しないが、三小だけは市内全域から受け入れ可能とするのはどうか。ただ、そのためには、三小が他の学校にない特色を出す必要があると思う。
- 事務局： 当市においては、学校と地域が一体化した指定学校制を今後も採用したいと考えている。そうになると、三小だけ別に考えることは難しいと思う。
- 委員長： 以上の話を踏まえると、三小の児童数が少ないことは課題であるが、市全体で考えると、中・長期的な課題として取り組むことになると思う。東京街道団地の再開発の見込みはどんな状況か。

- 事務局： 具体的な情報は入っていないが、再開発が進むとすれば、向原の都営住宅跡地と同様、民間に土地を貸し付けた上で、戸建て住宅が建設されると思う。そうなれば、若い世代が入居すると思うので、子どもの数は増える可能性があると思う。前回の審議会で示された、三小の通学区域の変更が進まなかった理由も、この再開発の動向を見極めるためだったと記憶している。
- 委員長： 三小の通学区域を含む市の東部では、子どもの姿を見ることが少なく、通学区域を変更したとしても、子どもの数があまり増えないのではないか。
- 委員： 六小の江戸街道から北側の地域は、昔からの住人が多く、ある程度の人口はいると思う。
- 委員： 通学区域を変更するのは、「やむを得ない」という場合に限定すべきで、「望ましい」程度では変更すべきではないと思う。三小は児童数が少ないとはいえ、1学年2学級となる見込みであるので、この段階で「通学区域を変更する」とまでは言い切らない方が良いと思う。
- 委員長： 三小については、児童数が少ないことを課題として明記するが、具体的な対策については、中・長期的な課題として、今後の再開発の状況等を考慮しながら、二小・五小・六小を含めて通学区域の変更を検討するという事でまとめた。
- 委員長： 次に、九小の統廃合について、検討したい。
- 委員： 報告書（案）の七小と九小を統廃合した場合のシミュレーションについて、徐々に子どもを九小から七小に移して、最後九小は6年生1学年のみとなるという仮定となっているが、実際にこのような手法では統廃合できないことに留意する必要があると思う。
- 委員長： 次回会議においては、統廃合は一定の時期に実施するという前提で、再度シミュレーションをお願いしたい。
- 委員長： 九小の今後の児童数は増加傾向である。七小についても、モノレールの駅に近いので、今後児童数が増える可能性もある。このような状況の中で、中・長期的な課題とはいえ、統廃合という言葉を使って良いのか疑問が残る。同じ小規模校の三小については、統廃合までは踏み込んでいない。また、報告書（案）では、九小を廃校として一小と七小に統廃合するシミュレーションも示されているが、統廃合ありきの印象で違和感がある。
- 委員： 統廃合と聞くと、地域住民の方は「いずれ九小は無くなる」という印象を受けてしまうので、「統廃合」という言葉は慎重に使う必要があると思う。
- 委員長： 現状では、統廃合せざるを得ないという状況ではないと思うので、「統廃合」という言葉は削っても良いのではないか。

- 委員： この委員会で検討はしたけれど、「状況が変わらない限り統廃合はしない」という結論で良いのではないか。
- 委員長： 報告書（案）の位置付けについても、九小の対策については、その他の検討事項」という形で整理するのはどうか。
- 事務局： この委員会では実際に九小の対策について議論がなされ、その結果として統廃合は時期尚早との結論になったので、報告書（案）にその結果をまとめてもらいたいが、記載にあたっては、誤解を与えないような表現にする必要があると思う。
- 委員： 地域住民に、「九小は統廃合される」というイメージが付いてしまうと、それを払拭するのは大変だと思うので、「統廃合」という言葉は、慎重に使った方が良いと思う。
- 事務局： 報告書（案）のまとめ方について、九小の対策については「課題に対する対策」としてではなく、「その他の検討事項」という形で整理してはどうか。内容としては、「統廃合も検討したが、今後の児童数は増加傾向であり、七小については通級の設置も検討しているので、現段階で統廃合は難しい」ということでまとめ、検討の結果として、2通りのシミュレーションを示せば良いのではないか。
- 委員長： 九小の対策については、その内容でまとめることとしたい。
- 委員長： 次に、五小の小・中連携教育について、検討したい。この課題については、二小・五小・六小・三小の通学区域が今後どうなるかにより、今後の対応が異なってくると思う。
- 事務局： 事務局では、五小が二中と三中に分かれてしまうことについて、具体的に小・中連携教育にどのような影響があるか、再確認をしているところである。
- 委員長： 五小の先生は、二中と三中の2校と連携しなければならず、その点では大変な部分があるとは思う。
- 委員： 報告書（案）では、五小の全児童が二中に進学するシミュレーションが示されているが、その結果、三中は9学級となる見込みである。9学級は小規模校なので、様々な影響が出てくると思う。
- 委員長： 報告書（案）のシミュレーションとは逆に、五小の全児童が三中に進学すれば、二小ー二中、五小・六小・三小ー三中で、小・中連携が出来るのではないか。
- 委員： この方法の方が、三中の生徒数が減らないので良いと思う。生徒数・学級数が少ないことにより生じる影響は、小学校より中学校の方が大きいのではないか。
- 事務局： この場合のシミュレーションについては今回実施していないので、次回会議で示したい。ただ、この変更により、二中は二小のみとなり、小学校と中学校とで人間関係に変化が起きないことが気になる。また、

二中が小規模化するという課題もあると思う。

委員長： 長期的には、二小と二中で、小中一貫校をつくるという発想もあるのではないか。次回会議において、二小ー二中、五小・六小・三小ー三中のシミュレーションを示してもらい、改めて検討することとしたい。

委員長： 次に、言語通級学級の設置について検討したい。

事務局： 市内小学校に調査した結果、言語通級学級の利用が望ましいと思われる児童数が、市内全体で約30人程度おり、潜在的需要があることがわかった。この結果を受け、事務局としては、言語通級学級を設置したいと考えているが、プレイルームなどを共用できるので、情緒通級に併設する形が良いと考えている。

委員長： 言語通級学級の設置については、その内容でまとめることとしたい。